

第3回琴浦町地方創生推進会議

日時：6月25日（木）
19:00～20:40（予定）
場所：役場本庁舎防災会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

① 琴浦町人口ビジョン、総合戦略骨子（素案）について…資料1 （19:00～）

② 総合戦略全体像についての意見交換 （19:20～20:20）
4つのテーマによるグループ討議・・・別紙

③ 各グループより意見発表・まとめ （20:20～）

④ その他

4. その他

次回会議日程 7月 日（ ） 時～ 時
場所 役場本庁舎防災会議室

5. 閉 会

担当：企画情報課 山根、佐藤
電話：0858-52-1708
ファクシミリ：0858-49-0000
e-mail：sousei@town.kotoura.tottori.jp

琴浦町地方創生推進会議 委員名簿

任期：H27.6.25～H29.3.31

組織または団体名		氏 名	
琴浦町観光協会		杉山 佳奈	
山陰合同銀行		黒田 明宏	
鳥取銀行		金尾 保彦	
琴浦町商工会		米原 洋一	
JA 鳥取中央農業協同組合		福山 昭	
大山乳業農業協同組合		亀田 進一	
赤碕町漁業協同組合		林原 秀子	
琴浦町区長会（東伯地区）		桑本 賢治	
琴浦町区長会（赤碕地区）		和田 實	
琴浦町女性団体連絡協議会		光本 みゑ子	
琴浦町 PTA 連合協議会		前田 良二	
〃		井東 千恵子	
琴浦町保育園保護者会連合会		朝倉 俊之	
〃		田栗 恵子	
琴浦町社会福祉協議会		吉田 美由紀	
鳥取大学		小野 達也	
琴の浦高等特別支援学校		中谷 由美	
新日本海新聞社		佐伯 健二	
琴浦まちづくりネットワーク		四門 隆	
〃		山本 伊都子	
琴浦町農業青年会議		真山 健太郎	
琴浦町手をつなぐ育成会		安谷 潔美	
琴浦町青年団		川本 倫枝	
連合鳥取中部地域協議会		信組 昌孝	
鳥取県森林組合（H27.6.25～）		御古 修	
鳥取県琴浦町担当市町村コンシェルジュ （中部総合事務所農林局副局長）		米田 和晃	
事務局	事務局長		小松 弘明
	琴浦町地方創生推進室	室 長	遠藤 義章
		主 査	山根 利恵
		係 長	佐藤 陽一

琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略全体像についての意見交換

4つのテーマに分かれて、グループで意見交換を行います。

どうすれば琴浦町が元気になるか、町の強みを生かすには何をすればよいか、それぞれのテーマで思いを語り合ってください。結論を求めるものではありません。

初めに、進行役と記録者、発表者をそれぞれ1人決めてください。

■グループでの役割

進行役	グループの話し合いの司会・進行を行う。
記録者	話し合いの様子を模造紙などにまとめる(出た意見等を貼り付けたり、グループ分けなど)。
発表者	全体会で、グループで出た意見の概要を報告する。

■話し合いのルール

参加	積極的に参加しましょう
尊重	一人ひとりの意見を尊重しましょう
守秘	参加者の個人的な情報は守りましょう

■グループでの意見交換の流れ

	時間	主な活動	内容
開会	19:20	1. 役割決め	進行役、記録者、発表者
	19:25	2. テーマの確認	4つのテーマのうち、グループのテーマをそれぞれ確認。
話し合い	19:30	3. テーマ別の具体的施策について意見交換	①総合戦略骨子(素案)の4つのテーマ、全体像の重点施策等の確認。
			②各地区意見交換会での意見を参考に、先駆性や特色ある取り組みについて意見交換。
			③ポストイットを使って、各自が1枚に1つのアイデアを記載。
			④出た意見を関連ごとにグループに分け、アイデアを広げる。実現性、効果等も検討する。
まとめ	20:05	4. 全体での発表に向け、意見をまとめる	①総合戦略骨子(素案)への意見
			②テーマごとの具体的施策について
			③その他、町が取り組む地方創生についての意見
全体会発表	20:20	各グループの報告	テーマについてグループで出た意見、その他の意見等を各グループの発表者が報告する。
意見交換	20:30	全体会での意見交換	それぞれのグループの報告を受け、全体での意見交換。

第3回琴浦町地方創生推進会議グループ討議 テーマ別委員名簿（事務局案）

※アドバイザー 米田 和晃（琴浦町担当コンシェルジュ）

テーマ①	団体名	氏名
コトウラで 育む	琴浦町 PTA 連合協議会	前田 良二
	〃	井東 千恵子
	琴浦町保育園保護者会連合会	朝倉 俊之
	〃	田栗 恵子
	琴の浦高等特別支援学校	中谷 由美
	連合鳥取中部地域協議会	信組 昌孝
	事務局（地方創生推進室）	山根 利恵

テーマ②	団体名	氏名
コトウラで 創る	山陰合同銀行	黒田 明宏
	鳥取銀行	金尾 保彦
	琴浦町商工会	米原 洋一
	JA 鳥取中央農業協同組合	福山 昭
	大山乳業農業協同組合	亀田 進一
	赤碕町漁業協同組合	林原 秀子
	琴浦町農業青年会議	真山 健太郎
	鳥取県中部森林組合	御古 修
	事務局（副町長）	小松 弘明

テーマ③	団体名	氏名
コトウラで 輝く	琴浦町観光協会	杉山 佳奈
	琴浦町女性団体連絡協議会	光本 みゑ子
	鳥取大学	小野 達也
	琴浦まちづくりネットワーク	四門 隆
	〃	山本 伊都子
	新日本海新聞社	佐伯 健二
	事務局（地方創生推進室）	佐藤 陽一

テーマ④	団体名	氏名
コトウラに 根づく	琴浦町区長会（東伯地区）	桑本 賢治
	琴浦町区長会（赤碕地区）	和田 實
	琴浦町社会福祉協議会	吉田 美由紀
	琴浦町手をつなぐ育成会	安谷 潔美
	琴浦町青年団	川本 倫枝
	事務局（地方創生推進室）	遠藤 義章

琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略（「人口ビジョン」「総合戦略」）の全体像

人口ビジョン

総合戦略（平成27年度～平成31年度の5カ年）



◎人口減少問題の克服

- 2040年に〇〇〇人程度の人口を確保
- 合計特殊出生率 〇〇〇

◎住民の活力によるまちづくりで地域の活性化

各地区地方創生意見交換会での主な意見

日時：平成 27 年 6 月 8 日（月）～24 日（水）

19：30～21：00

場所：各地区公民館（9 カ所で実施）

テーマ	主な意見
<p>① コトウラで育む</p>	<p>●結婚対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身の方が多いので、婚活にも目を向けて積極的に取り組む。 ・結婚したがらない人も増えているので、結婚の魅力を伝えることも必要。 ・独身者だけでなく、その親への呼びかけが必要。 ・地元の婚活には参加しにくい。広域で開催し、追跡調査や内容の工夫を。毛恋愛心理カウンセラーを呼んだり、体験を通して仲良くなるイベントなど。 ・出産祝金は1人目からはどうか。 ・婚活はテレビ番組（ナイナイなど）を活用し、本気で取り組む。 ・仲人のような結婚を世話する方を育成する。 ・結婚のイメージをよくする取り組みが必要。 ・ミオ・ファティニティ・クリニックの葉山看護師の講演など、命や性教育の取り組み。 <p>●子育て対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の整備のなかに、こども園へのアクセスや送迎バスなどの検討を行う。 ・子育て中の家庭に助成をして、子どものころから音楽や映画などの芸術に触れる機会をつくる。 ・希望する保育園、こども園に通えるような体制整備。 ・ひとりっこへの子育て支援も充実させる。 ・子育て中は、働きながら何かあったときに対応できる制度が必要。 ・サービス業などに勤める方もあるので、24 時間保育や土日も預けられるような体制があってもいいのでは。 ・保育料 3 人目無料、保育料 2 人目半額免除は生ぬるいので、もっと大胆に一人目から無料にしては。 ・子育て世代への助成だけでは住む人はいない。 ・パートには産休制度がないため退職となる。2 人目を産むときは 1 人目を預けることができない。法律などで定められていることかもしれないが、正規・非正規、1 人目 2 人目にかかわらず預けられるようになれば、子育て世代は増えるかもしれない。 ・養護学校の児童生徒を放課後預かってくれる施設は赤碕地区しかない。東伯地区にもあれば支援になる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に子どもを遊ばせることができる公園がない。総合運動公園の遊具が撤去されたので、町外に出てしまう。 ・地域に保育園がなくなり、子どもがいなくなると活気もなくなる。合併ばかり考えず、子どもが1人・2人になっても保育園を存続していかないといけない。 <p>●ふるさとへの愛着を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琴浦町の歴史や文化、地域のよさを幼児期から中学生までのうちに子どもたちに伝える取り組みが必要。 ・町の基幹産業である農業について、学校教育の中で取り組む。 ・旧以西小学校を活用したセカンドスクールの実施（1週間程度） ・少年自然の家などと連携して、短期～1年程度の山村留学を実施。 ・子どもの授業で、地元産業に触れ合う機会を増やす。興味を持ってもらわないと定住も考えない。農業も経験させてみる。 ・森のようちえんのように、田んぼの幼稚園や、田んぼアートなど、おもしろいことや楽しい経験をさせる。 ・地域愛をはぐくむような学校教育の実施。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性を増やすのが大切。ターゲットを絞れば、やり方も違ってくる。メニュー化を図り、大胆な施策を考えるべきでは。 ・結婚から生活、子育て、福祉までひとつの相談窓口で対応できるような体制整備。
<p>③コトウラで創る</p>	<p>●一次産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業でも農業でも、若い人は新しいことを開拓したがない感じがある。もっと儲けることができる経営支援など、やりがいづくりを。 ・農事組合法人を作り、給料がもらえる農業システムを広げていく取り組み。 ・農業の振興を図り後継者を確保する。 ・人口が減ると、売り上げも減る。少ない人口で何箇所も直売所があると、経費がかかって採算性が少ない。まとめて関西などに出荷してもらうなど、JAは必要。 ・鳥獣被害が大きいので、イノシシ、ヌートリアを活用する方法を検討してはどうか。 ・ぼろたんを作っているが、販路がなかなかない。 ・法人化するのは反対ではないが、リーダーがいない。自分から率先してやろうという元気な人がいない。 ・中山間地域を守っていかうとする行政の施策がない。 ・空き家と荒廃農地を一体的に整備し、希望する人に提供する。 ・大原のトマトや大栄のスイカなどブランド化を図る。 ・琴浦の産物を加工した、企業の製品開発に支援する。新しいものを発掘し、県と町がタイアップして販路を拡大する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の6次産業化は県の補助はだいたい1/2で、そこに町独自の補助金をつくって支援する。 ・食料だけでなく、すべて自給自足で暮らせる町づくり。作って売れるルートを町内で整備する。 <p>●既存産業の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存企業を成長させ雇用を拡大させる。 ・地元の産業のよさを伝えていく。 ・農業だけでなく、建設業も職人の育成が必要。 <p>●新たなしごとの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の家と連携し、旧以西小学校のグラウンドでサッカー合宿等を誘致。人が動けば経済も回る。 ・空き校舎の貸し出しなど起業支援を充実させれば、若い人も定住するのは。 ・空き校舎を利用して、高齢者が農産物加工を行う農業福祉施設のようなものを整備（介護予防） ・大きな病院が1つ建てば人も集まり、仕事も生まれ、魅力になる。 ・林地が荒れているので間伐を行い、その間伐材で名産品を開発する。 ・竹林を整備し、たけのこ栽培を行う。 ・竹細工、しめ縄など工芸品の販路拡大と技術の継承を推進。 ・娯楽や企業や何もないので若者は帰ってこない。根本的なところで、プロジェクトなどつくって働ける場を作る。 ・企業誘致でかなりのお金をかけても、必ずしも住民の希望にかなうものというわけでもない。お金をかけて誘致して、本当に琴浦町が潤うのか、出ている子どもが帰ってくるのか、これまでの反省も踏まえて検討を。 ・採用してくれたら企業に5年間補助するなど琴浦方式の補助制度をつくり、米子などの企業から行政が求人を取って来て、その企業を紹介するなどをしてもらいたい。その方が魅力ある企業に就ける。よそと同じことをしていても生き残れない。企業誘致などのお金をそちらに回し、帰って来た人材を紹介していくようなシステムを作る。やっているのなら情報を出してほしい。 ・物づくりに魅力を感じる人は多い。ポリテクセンター（職業能力開発促進センター）等の情報を発信する。
<p>②コトウラで輝く</p>	<p>●観光関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源のひとつとして、県立博物館の誘致。 ・斎尾廃寺跡を復元して観光のひとつとしてはどうか。花菖蒲の生産者もあり、ウォーキングコースなどで観光客を誘致する。 ・ゴミ対策など、サーフィン客の受け入れ態勢ができていない。 ・海の近くであることを活用して、釣り堀の整備を行う。

- ・ さくらを観光資源とした PR。
- ・ 大山滝へのアクセスの整備。
- ・ 日本海側の魚、四季がはっきりしている、海から山までの距離が近く、コンパクトにまとまって色々体験できることなどの魅力を PR。
- ・ 城跡や八幡宮、古墳などあるが、この地区には観光的なものは何もない。地域の魅力を発見していくことから始めなければいけない。
- ・ 地域に住んでいるものには気づかない魅力があるのかもしれない。
- ・ 北栄町にはコナンがあるが、琴浦は目玉となる観光地がない。鳥取、境港の中間にあることを活用できたら観光客も増えるのでは。
- ・ 琴浦町の魅力が十分 PR できていないので、積極的に PR していく。
- ・ 海が近いというよさはあるが、漁業権という問題があり、琴浦町のよさにつながっていない。
- ・ 船上山の天井屋敷までを観光の魅力の 1 つとして整備を。道しるべや歴史を知らせ、ここにしかない魅力を見つけることが大切。
- ・ 地域内に点在する名所をつなげ、観光を面として実施していく。
- ・ 琴浦には司馬遼太郎に関係するものがあるので、それらを活用してまちおこしをしては。
- ・ 農業などの体験型ツーリズムで琴浦のよさを認識してもらう。
- ・ 観光で来られる人に何か付加価値をつける。学校跡地などを利用し、何かを学べるツアーなどを実施。学べ、観光でき、寄り添ってくれる町。
- ・ よそにはない仕組みづくり。
- ・ 以西の池田家など、船上山を機軸とした新しい観光ルートの掘り起こし。

●地域の活性化

- ・ 地域づくりに取り組む団体へ支援
- ・ 「あすの以西を創る会」のような取り組みこそが地方創生につながる活動では。地域が元気になる活動が広がれば。
- ・ 既存の施設、空き家などを活用して、お年寄りのカフェ、集まれる場所を作ればお年寄りは喜ぶ。
- ・ 公民館で地域住民が集まれるようなカフェを月一回から開催しようと考えている。こういった活動が地域の活性化になればと思っている。
- ・ 地区の祭りがあれば、地域としての活力になる。
- ・ 若い力は必要かもしれないが、まずはいま地域にいる人が元気に取り組んでいくことが必要。百歳体操の取り組みはそういった取り組みのひとつである。
- ・ 大人が琴浦町で暮らして楽しんでいる姿を見せていく。
- ・ 地域の宝は人であると考え。リピーターは人を求めてくることも多い。
- ・ しごと・ひと・しごととあわせ、「こころ」の創生も重要。
- ・ まちの活気がないので、そこから対策を始めていく。
- ・ 人づくりが大事。リーダー的な人や、まちづくりに意欲のある人を育てるため、今の取り組みを分かりやすく町民に知らせる。人づくりは全部に関わること。

④コトウラに 根づく

●暮らしやすいまちづくり

- ・道路が良くなり県内は通勤圏内なので、県内で働いて琴浦町は暮らしやすい町に。
- ・中山間対策として、3世代同居する世帯に対し何らかの助成が必要ではないか。
- ・公共交通に対する整備（ガーデンヒルズのバス停等）も住みやすいまちには必要。
- ・人口が減少すれば、その時代にあった生活様式を検討する。
- ・町営住宅の入居者募集の際に、高齢者優先といった制約をつける場合があるが、そうした結果その住宅に高齢者しかおらず、コミュニティーとして成り立たない状況がある。ひとつの町のようにいろいろな人がいるようなものにするべきであると思う。
- ・いま住んでいる人が豊かに暮らせる環境づくりから取り組んでいく。
- ・外向きばかりの政策だけでなく、今ここに住んでいる人が幸せでニコニコでしている町だったら、人は入ってくる。そんな町になってないのに、外にばかり金を使ってもいけない。住んでいる人を大事にした施策を。

●健康に暮らせるまちづくり

- ・琴浦町は介護施設が多く、介護保険料も高い。施設に入らなくていいように、介護予防の取り組みも必要。
- ・継続介護付きリタイアメント・コミュニティー（日本版 CCRC 構想）は、一時的に人口が増えても10年後はどうなるのか。医療費だけが増えていくのでは。
- ・浦安駅前周辺に13箇所ある病院を活かした福祉のまちづくりを推進する。
- ・小学校のプールを健康教室などに活用する。
- ・高齢者が楽しめるような場所をつくる。

●若者の定住対策

- ・進学で県外に出て行くことが多いので、県内に看護学校などが増えれば若者は増えていく。
- ・若者が帰って来たいと思う理由（魅力・特色）をつくる必要がある。
- ・卒業される時期に合わせて、Uターン、定住を促進するようPRする。
- ・大学などで県外に出た若者に、Uターンを促すようなPR、施策が必要。手紙などを出すのもひとつの方策である。
- ・IJターンよりUターン支援の充実を。Uターンは次の世代に繋がる可能性がある。今は家庭まかせだが、それを町と一緒にやる。名簿を作って対象者を把握し、動機付けとなるような取り組みをしては。
- ・Uターンで帰ってくる人が町営住宅に入りにくい。家庭を持ってUターンしてくる人が意図する住宅に入れるよう、要件の拡大などを。

	<p>●移住定住対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元にも空き家がたくさんある。安く住んでもらって、米子や中部に勤めに出てもらえばいい。 ・家賃助成など住まいに対する助成がなければ転入人口は増えないのではないか。 ・移住定住を試す場所をつくり（お試し住宅）、野菜の収穫体験などをしてもらい、そこに世話役をつける。自分のことを分かってくれる地域でないと住まないのでは。生活環境の違いをサポートする人が必要。
<p>その他の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の外国進出など地方へひとの流れを作るには国の施策がこれまで以上に必要となるので、国に対して要望していくことが必要。 ・地域住民が自分の宝物を見つけ、それを町外へ発信していく。 ・市町村の枠にとらわれず、自治体が協力してまちづくりを進めていく。 ・町民一人ひとりがアイデアを出し、まちづくりをすすめていく。 ・県が行っている赤碕港湾での釣りの規制などやめるよう要望する。 ・人口減少がいつ頃危機的状況を迎えるのか、それに対してどのような取り組みをしていくのかを次の機会に示してほしい。 ・町の顔となるホームページをもっと魅力あるものに変える。 ・収入が少ないのであれば、税金を安くしたり、子供にかかる経費を補助するなどの検討が必要である。 ・地方創生、人口減少問題がどこか他人事になってしまっているのではないかと。まず自分の身近な問題として町民みんなが考えなくてはいけない。 ・旅館など外部のコンサルタントなどの助言を受けることがあるが、町でも外部の意見を聞きながらまちづくりをすすめていってはどうか。 ・町民全体が危機感を持って本気で考えないと、人口減少問題は解決できない。 ・地域おこし協力隊を、地域に配置して課題解決を行う手法を取り入れてほしい。 ・特色ある政策を早くしないと生き残れない。